

36. 日本の現状と、何歩も先をゆく国の理想の国の姿を分かりやすく当事者の声を通して聞かせて下さりありがとうございました。印象的だったことはカウンセラーとのやり取りではなく、当事者同士の繋がりとやり取りに一番救われるという言葉です。私は親の立場ですが、告知して育てる親同士の繋がりが同世代では皆無なので、カウンセリングを受けて精神的に立ち直りたいと思っています。ですが、適切な場所が日本にはないことも判っているので、行き詰まりを感じています。出自を知る権利の実現も叶えたいと願います。

37. AIDで生まれた子の権利を親として守っていききたい。そのために自分ができることを明確にしていきたいと思い参加させていただきました。海外の状況も知ることができて非常に良かったです。またこのような機会を設けていただきたいです。

38. DIで生まれた子どもの出自を知る権利の重要性を再認識した。将来、子どもがドナー情報を知りたい言った時に開示できるよう今最善を尽くすべきだと感じた。他の国がどのように出自の権利が進んでいるのかも知ることができた。もっと子どもに対してのケア、夫婦のケアが必要だということもわかった。もっともっとこの治療について勉強したいと思った。

39. 勉強になりました。

40. 今まで提供精子で生まれた人に出会ったことも、出自を知ることの重要性について考えたこともなかったため、今日のフォーラムで、沢山のことを学ばせていただきました。日本で、出自を知ることの権利が認められない原因として「親目線で考えることが多く、子どもに焦点があたっていない」ことが挙げられていました。これはこの問題だけでなく、多くのことに通じると思います。私自身は提供精子で生まれていませんが、学ぶことはできるため、「知る権利」が認められる社会づくりに少しでも貢献することができるよう、今後理解を深めていきたいです。

41. 不妊治療クリニックにて心理カウンセリングをしております。提供配偶子による不妊治療を検討する患者さんの相談も受けるため、当事者の皆さんとDaniels先生のお話は今後の臨床活動に大変役立つと思えました。生まれてくる子ども権利や視点を、患者さんにどのように伝えるかのヒントを多くいただけたと思います。大変有意義な講義を開催していただき、どうもあ